様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 10 日現在

機関番号：34517
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：22500598
研究課題名（和文）バスケットボールにおける即興的な攻撃戦術に関する研究：コーチの語りを手がかりに
研究課題名（英文）Studies on improvisational freelance offense in basketball :based on the narratives of coach.
研究代表者
坂井　和明（SAKAI KAZUAKI）
武庫川女子大学・健康・スポーツ科学部・准教授
研究者番号：90247099

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は，バスケットボール競技において国際的に高い競技成績を残しているコーチ（前全日本女子ヘッドコーチ中川氏）およびその指導を受けたコーチが持つ攻撃戦術の指導に関する実践知を，質的研究の手法である半構造化インタビュー法から得られた「語り」を手がかりに知識化することであった．その結果，効果的なフリーランス・オフェンスの設計法，養成法に関する実践知を明らかにすることができた．

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to gain practical wisdom about the coaching method of improvisational offensive tactics called “freelance” in basketball. To accomplish this, interviews were conducted with two coaches who had excelled at the international level. Using qualitative methodology, the interview was analyzed and the practical wisdom of training method and design method of freelance were identified.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	300,000	90,000	390,000
2012 年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総　計	1,100,000	330,000	1,430,000

研究分野：健康・スポーツ科学
科研費の分科・細目：スポーツ科学
キーワード：コーチング・球技・戦術・質的研究

１．研究開始当初の背景

バスケットボール競技における映像情報と数値情報を用いたゲーム分析の手法は近年益々高度化しており、事前の計画性が高いチーム戦術を遂行するだけでは、すぐに対戦相手に対応策を立案されるため、世界大会において高い競技成績を残すことが難しくなっているのが現状である。これに対して、フリーランス・オフェンスは、変化するゲーム状況に応じて攻撃をしかける即興性が高い攻撃戦術であり、対戦相手としては対応策の立案が難しいという側面を持っている。

今後バスケットボールのトップレイベルにおいて高い競技成績を得るためには，プレイ状況の変化に応じて即興的かつ効果的にプレイ経過を創出するタイプの攻撃戦術を，より積極的に採用していくことが必要になると予想される．したがって，「どんなフリーランスが効果的なのか」（目標論），フリーランス・オフェンスを「どうやって設計するのか」あるいは「どうやって養成するのか」（手段論）という二つの問題を具体的に解決

していくことが，バスケットボールの戦術研究における重要な研究課題になると考えられる．

２．研究の目的

フリーランス・オフェンスを中心的な攻撃戦術として採用し，国際レベルにおいて高い指導実績を有するトップコーチおよびそのコーチに指導を受けたプレイヤーを対象にインタビュー調査を行い，フリーランス・オフェンスの効果的な設計法，養成法，学習法に関する語りを質的に検討し，即興的かつ効果的にプレイ経過を創出するタイプの攻撃戦術が備えていなければならない条件やプレイの原則について明らかにすることを目的とした．

３．研究の方法

（1）調査対象者

1996年アトランタオリンピック7位獲得の全日本女子バスケットボールチームヘッドコーチ中川文一氏

1996年アトランタオリンピック7位獲得の全日本女子バスケットボールチームでプレイし，現早稲田大学女子バスケットボールチームヘッドコーチ萩原美樹子氏

（2）調査方法

調査対象者に，本研究の趣旨を事前に十分に説明し，調査への協力を得た．インタビュー調査に先立ち，いずれの質問に対しても回答を拒否できることを伝え，調査内容のVTR記録および研究成果の実名での公開の了解を得た．

インタビュー調査に先立ち，調査内容に対して自由記述形式で回答を求めるアンケート調査票を対象者に郵送し，指導経験またはプレイ経験を振り返って記述し，返信してもらった．インタビュー調査時には，それを補助資料として用いた．

インタビューの場所は，対象者と調査者が1対1で対話できる静かな場所とした．インタビューの方法は，反構造化面接を用いた．全ての発言は，デジタルビデオカメラを用いて録音した．

（3）テクストの生成

全ての発言内容を逐語録として文章におこした．戦術的なプレイヤーの動きに関しては，コート図に記述した．データの妥当性および信頼性を保証するために，調査内容のまとめとコート図を対象者に郵送し，それが発言の趣旨と異なっていないか，加筆および訂正箇所がないかを確認したものを基礎資料とした．

指導者の実践知を明らかにするために，得られた基礎資料を，フリーランスの有効性，フリーランスの設計法，フリーランスの養成法に着目して，テクストとして再構築した．

（4）テクストの分析

テクストの分析は，バスケットボールを専門とし，公益財団法人日本バスケットボール協会公認コーチライセンス保有者し，競技場面において選手および指導者としての活動経験をもつ研究者が行った．分析にあたっては，攻撃戦術に関する既存の理論をできるだけ保留し，現象学的態度で臨んだ．

４．研究成果

（1）中川氏は，バスケットボールにおける即興的な攻撃戦術であるフリーランス・オフェンスの有効性を「速攻から攻撃を一旦ストップさせることなく連続してシュートチャンスを創出させていくことができる」と捉えており，その立案では「防御に対する表裏の二者択一を準備したグループ戦術を核に使って選択肢を制限すること」が効果的であると考えていることが明らかになった．

（2）萩原氏は，フリーランス・オフェンスを効果的に設計するためには，攻撃をオールコートでの速攻による場合と，ハーフコートでのセットによる場合とに分けて，それぞれどのようにプレイを開始するかのルールを準備すること，および攻撃が停滞したいわゆる「困った状態」でどのようなプレイを志向するかについてのルールを準備することが大切であると考えていることが明らかになった．また，フリーランス・オフェンスは，攻撃の起点となるポイントガードと呼ばれるポジションのプレイヤーがプレイを仕掛けて開始される場合と，ポイントガード以外のプレイヤーがシュートチャンスを生み出すスコアリングプレイを先に仕掛けて開始される場合の両方があることが明らかになった．

（3）民族的特徴として体格に劣るため，ゴールに背中を向けてプレイする190cm台のセンタープレイヤーを多数輩出することが難しい日本女子チームが，その下の180cm台のプレイヤーを増やしオールラウンドに攻める戦い方は，フル代表だけでなくアンダーカテゴリーにおいても高い競技成績を残しており，世界的にみてもオリジナリティーが高い攻撃戦術である．今後，フリーランス・オフェンスの養成方法を検討していくことが球技における喫緊の研究課題になると考えられる．

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）
①坂井和明，鈴木淳，バスケットボールにおける即興的な攻撃戦術に関する質的研究
:国際レベルで活躍したプレイヤーの語りを手がかりに，健康運動科学，査読有，1 巻，2012，（ページ未定）

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
（　　）

研究者番号：

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：